

子どもがかかりやすい感染症のしおり

令和5年度 子育て支援課

病名	病原体	感染経路	潜伏期間	症状	登園のめやす
咽頭結膜熱 (プール熱)	アデノウイルス	飛沫感染 接触感染	2~14日	高熱、咽頭発赤、咽頭痛、結膜の充血、目やに、夏季に多い。	主な症状(発熱、咽頭発赤、眼の充血)が消失した後2日を経過するまで
インフルエンザ	インフルエンザウイルス	飛沫感染 接触感染	1~4日	全身倦怠感、突然の高熱、咽頭痛、関節痛、筋肉痛、鼻水、咳<合併症>肺炎、中耳炎、熱性けいれん、脳症	発症後最低5日間かつ解熱した後3日を経過するまで ※「発症」とは、「発熱」の症状が現れたことを言います
結核	結核菌	空気感染 飛沫感染	2年以内 特に6か月以内に多い	咳、痰、発熱 乳幼児では重症結核(粟粒結核、結核性髄膜炎)になる可能性がある。	医師により感染のおそれなくなると認められるまで
水痘 (みずぼうそう)	水痘・帯状疱疹ウイルス	空気感染 飛沫感染 接触感染	14~16日	発しんが、顔や頭部に出現し、やがて全身に広がる。紅斑から丘疹、水疱、かさぶたの順に変化する。発しんはかゆみが高い。	すべての発しんがかさぶたになるまで
百日咳	百日咳菌	飛沫感染 接触感染	7~10日	感冒様症状からはじまる。次第に咳が強くなり、1~2週で特有な咳発作になる。咳は夜間に悪化する。合併症がない限り、発熱はない。	特有な咳が消失するまで又は5日間の適正な抗菌性物質製剤による治療を終了するまで
風しん (三日はしか)	風しんウイルス	飛沫感染 接触感染	16~18日	発熱、淡紅色の発しん(顔・身体)、後頭部・頸部リンパ節の腫れ 発しんは約3日で消失	発しんが消失するまで
麻しん (はしか)	麻しんウイルス	空気感染 飛沫感染 接触感染	8~12日	発熱・咳・鼻水・目やに等 熱が一時下がるとコプリック斑(頬粘膜に小さい斑点) 再発熱後赤みが強い発しん	解熱した後3日を経過するまで(病状により感染力が強いと認められたときは長期に及ぶこともある)
流行性耳下腺炎 (おたふくかぜ)	ムンプスウイルス	飛沫感染 接触感染	16~18日	発熱と耳下腺、顎下腺、舌下腺の腫脹・疼痛。約30%明らかな症状がないことがある。	耳下腺、顎下腺、舌下腺の腫脹が発現してから5日を経過するまで、かつ全身状態が良好になるまで
流行性角結膜炎 (はやり目)	アデノウイルス	接触感染 飛沫感染	2~14日	結膜の充血、目やに	医師において感染の恐れがないと認められるまで(結膜炎の症状が消失してから)
腸管出血性大腸菌感染症	ベロ毒素を産生する大腸菌 (O157、O26、O111等)	経口感染 接触感染	O157: 3~4日 その他の大腸菌: 10時間~6日	激しい腹痛、頻回の水様便、さらに血便 発熱は軽度	医師において感染のおそれがないと認められていること
ウイルス性肝炎	B型肝炎ウイルス	血液や体液を介して感染 母子感染	45~160日 (平均90日)	全身倦怠感、発熱、食欲不振、黄疸 慢性肝炎では、自覚症状は少ない	急性肝炎の場合、症状が消失し、全身状態が良いこと キャリア・慢性肝炎の場合は、登園制限はない
アタマジラミ	アタマジラミ	頭髮から頭髮への直接接触 や衣服、帽子、櫛、寝具を介する感染	10~30日	小児では多くが無症状であるが、吸血部分にかゆみを訴えることがある。	

病名	病原体	感染経路	潜伏期間	症状	登園のめやす
手足口病	エンテロウイルス71型 コクサッキーウイルスA16型等	飛沫感染 経口感染 接触感染	3～6日	水疱性の発しんが、口腔、手のひら・足の裏・足の甲に現れる。発熱は軽度 発しんはかさぶたにならない。	発熱や口腔内の水疱・潰瘍の影響がなく、普段の食事が摂れること
伝染性紅斑 (りんご病)	ヒトパルボウイルスB19	飛沫感染	4～14日	軽いかぜ症状後、頬が赤くなり、手足に網目状の紅斑が出現 発しんが治っても、直射日光や、入浴で発しんが再発することがある。 (稀に妊婦の罹患により流産や胎児水腫がおこることがある。)	全身状態がよいこと(発しんが出現する頃には感染力は消失している)
伝染性軟属腫 (水いぼ)	伝染性軟属腫ウイルス	接触感染	2～7週間	直径1～5mmの半球状で中央にくぼみのあるいぼの一種で、手足や腹部、背中に数個～数十個出る。	掻きこわし傷から滲出液が出ているときは覆うこと
伝染性膿痂疹 (とびひ)	黄色ブドウ球菌 A群溶血性レンサ球菌	接触感染	2～10日	湿疹や虫刺され後を掻いた部分に細菌感染を起こし、びらんや水疱をつくる。	皮疹が乾燥しているか、乾燥していなければ覆うことができる程度のものであること
ヘルパンギーナ	コクサッキーウイルス	飛沫感染 接触感染 経口感染	3～6日	突然の高熱、咽頭痛、口腔内の水疱・潰瘍	発熱や口腔内の水疱・潰瘍の影響がなく、普段の食事が摂れること
マイコプラズマ肺炎	肺炎マイコプラズマ	飛沫感染	2～3週間	咳、発熱、頭痛などのかぜ症状が進行し、特に咳は徐々に激しくなる。数週間、咳が続く場合もある。	発熱や激しい咳が治まっていること (症状が改善し全身状態が良い)
感染性胃腸炎 (ウイルス性胃腸炎)	ノロウイルス ロタウイルス アデノウイルス等	経口感染 接触感染 食品媒介感染 吐物からの空気感染等	ノロウイルス 12～48時間 ロタウイルス 1～3日	発熱、下痢、嘔吐	別紙のとおり
溶連菌感染症	A型溶血性レンサ球菌	飛沫感染 接触感染	2～5日	突然の発熱、咽頭痛、痒みのある粟粒大の発しん	抗菌薬内服後24～48時間経過していること
RSウイルス感染症	RSウイルス	飛沫感染 接触感染	4～6日	発熱、鼻汁、咳、喘鳴、呼吸困難、冬季に流行。乳児期の初期感染は重症化しやすい。	咳や喘鳴などの呼吸器症状が消失し、全身状態が良いこと
突発性発しん	ヒトヘルペスウイルス6B、7	飛沫感染 接触感染	9～10日	3日程度の高熱の後、解熱とともに紅斑が出現し、数日でなくなる。	解熱し機嫌がよく全身状態が良いこと

※厚生労働省『保育所における感染症対策のガイドライン』(令和3年8月一部改訂)より抜粋

※感染経路の注釈

飛沫感染：感染している人が咳やくしゃみ、会話をした際に、口から飛ぶ病原体が含まれた小さな水滴(飛沫)を近くにいる人が浴びて吸い込むことで感染する。

経口感染：菌で汚染された水・食物が口に入り感染する。

接触感染：感染している人に触れることで伝播がおこる直接接触(握手、抱っこ、キスなど)による感染と汚染された物を介して伝播が起こる間接触による感染(ドアノブ、手すり、遊具等)がある。

空気感染：感染している人が咳やくしゃみ、会話をした際に、口から飛び出した小さな飛沫が乾燥し、その芯となっている病原体が感染性を保ったまま空気の流れによって拡散し、近くの人だけでなく、遠くにいる人もそれを吸い込んで感染する。

※各感染症につきましては、症状・経過に異なることがありますので、医師の治療を受け、その指示に従ってください。